

総合工学委員会

エネルギーと科学技術に関する分科会（第25期・第5回）議事要旨

日時 令和4年8月18日（木）13:05～15:05

会場 遠隔会議

出席者：疇地宏委員長、山地憲治副委員長、岩城智香子幹事、齋藤公児幹事、朝倉薫委員、伊藤公孝委員、犬竹 正明委員、大久保泰邦委員、大野恵美委員、兒玉了祐委員、近藤駿介委員、笹尾真実子委員、鈴置保雄委員、高田保之委員、藤岡恵子委員、三間圀興委員、宮崎久美子委員、矢川元基委員、和田元委員 計19名

配布資料：

資料 1-1 エネルギーと科学技術に関する分科会(第25期・第4回)議事録

資料 2-1-1 シンポジウム「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」報告

資料 2-1-2 『学術の動向』小特集企画案

資料 2-2 シンポジウム「2050年カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシナリオ」報告

資料 2-3 シンポジウム「活動的縁辺域における洋上風力開発に向けて」報告

資料 3-1 ハイパワーレーザーと高エネルギー密度科学小委員会活動報告

資料 3-2 持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会活動報告

資料 3-3 熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会活動報告

資料 4-1 意志の表出の申出書（ハイパワーレーザーと高エネルギー密度科学小委員会）

資料 4-2 意志の表出の申出書（持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会）

資料 4-3 意志の表出の申出書（熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会）

資料 エネルギーと科学技術に関する分科会名簿

議事

1) 前回議事録の確認

資料 1-1 第4回の議事録に関して、特に異論なく承認された。

2) 資料 2-1-1 に関して、三間委員から、シンポジウム「将来のエネルギー

科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」が令和4年2月3日に実施されたことが報告された。また報告資料 2-1-2 に関して、先のシンポジウムの総合討論に部分を『学術の動向』小特集企画案として、編集委員会に提案し、承認された旨が報告された。4名の方に執筆を依頼して、令和5年1月号に掲載予定であることが報告された。

- 3) 資料 2-2 に関して、山地副委員長からシンポジウム「2050年カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシナリオ」が、令和4年4月1日に実施されたことが報告された。6名の講演者からの講演、総合討論が実施され、全体議論の概要の報告があった。
- 4) 資料 2-3 に関して、岩城幹事からシンポジウム「活動的縁辺域における洋上風力開発に向けて」が、令和4年6月3日に実施されたことが報告された。6つのセッションで実施され、洋上風力の現状から国際協力や人材育成等が議論されたことが報告された。
- 5) 資料 3-1 に関して、三間委員からハイパワーレーザーと高エネルギー密度科学小委員会活動が報告された。前回報告以降に計5回の小委員会が開催され、意思の表出「見解」に関して議論・原案の作成等が中心に進められたことが報告された。
- 6) 資料 3-2 に関して、岩城幹事から持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会活動が報告された。主に意思の表出の「見解」に関して議論・原案の作成等が中心に進められたことが報告された。山地副委員長から文章に関して指摘があった。
- 7) 資料 3-3 に関して、藤岡委員から熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会活動が報告された。主にシンポジウム開催の提案、また意思の表出の「報告」に関して議論等が中心に進められたことが報告された。
- 8) 意思の表出に関して、疇地委員長より作成プロセスの概要の説明があり、まずは意思の表出に関する対応委員会に骨子を出し、その後分科会で議論・承認される旨の説明があった。また高田委員から対応委員会に関して、フローチャートを利用して付加説明がなされた。三間委員から申出書の作成に関して質問があり、高田委員から具体的な回答がなされた。
- 9) 資料 4-1 に関して、近藤委員から意志の表出の申出書（ハイパワーレーザーと高エネルギー密度科学小委員会）「パワーレーザーを用いた高エネルギー密度科学における学術創成と産業イノベーションにつながる新技術表出」の趣旨とその理由等の説明がなされた。また発出タイミングが今年を予定していることや将来ビジョンの展望等に関する説明がなされた。宮崎委員からステークホルダーの具体的な中身に関して質問があり、

近藤委員及び三間委員より詳細な説明がなされた。また疇地委員長から、見解発出の緊急性の意義と中核拠点設置による施設整備についてよく理解されるように記述すべきとのコメントがあり、近藤委員より骨子の段階でより具体的で納得感があるものにすべく検討したいとの回答があった。最終的に分科会で承認を得た。

- 1 0) 資料 4-2 に関して、岩城委員から意志の表出の申出書（持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発検討小委員会）「持続可能な開発目標達成のための洋上風力発電開発の表出」の趣旨とその理由等の説明がなされた。また発出タイミングが来年を予定していることや将来ビジョンの展望等に関する説明がなされた。山地副委員長から NEDO や JOGMEC や経産省や環境省との接触が不十分ではないかとのコメントがあり、岩城委員から今後の検討課題として持ち帰りたいとの回答があった。三間委員から「見解」の表題やキーワード等に不足の部分があり、影山事務局からもその点の指摘があった。宮崎委員からジオハザードに関して、台風など他の環境因子に関して明確に整理しておく必要があるのではないかとのコメントがあった。これに対して、岩城委員から持ち帰って小委員会で議論したいとの回答があった。また鈴置委員から文章の不備や見直し等に関してコメントがあり、岩城委員から再検討するとの回答があった。近藤委員から文章表現に関してコメントがあり、今後の修正に反映してほしいとのコメントがあった。大久保委員から JOGMEC 等を含めて議論を進めている点に関しての紹介があったが、疇地委員長から本件は保留とし、再度分科会での議論と決定された。
- 1 1) 資料 4-3 に関して、藤岡委員から意志の表出の申出書（熱エネルギー利用の社会実装基盤小委員会）の趣旨とその理由等の説明がなされた。また発出タイミングは今期中とし、骨子の作成等に関しては議論中で、次回の分科会に提案したいとの説明もあった。疇地委員長から本件は審議案件ではなく、次回の分科会での審議と決定された。宮崎委員から本小委員会への参画希望がなされ、藤岡委員の方で検討していくことになった。高田委員から折角の意思の表出であり、高位の意思表出を目指すべきとのコメントがあった。
- 1 2) その他
高田委員から新たな学術研究構想のエネルギーに関して新提案を出すか否かに関して質問があり、疇地委員長より分科会から提案はしないが、個々の提案を分科会として支持するようにしたいとの返答があった。

(以上)